

第10回3月17日(水)

昨年4月に開塾した一流塾も早いもので今回で最終回となり、講義と卒塾式を行いました。

前半の講義では、講師に寺島実郎氏(財日本総合研究所会長、多摩大学学長)を講師にお招きし、『世界潮流と日本の進路 - わが国の経営者の役割』と題する講義を行いました。寺島氏は客観的なデータに基づき、日本を取り巻く世界経済の動向、日本のおかれた状況に関する鋭い分析及び日本創生のシナリオに関する自説等をご披露頂きました。塾生からは、「海外展開の戦略を考える上で、大中華圏という切り口は大変参考になった」、「客観的なデータに基づく鋭い視点の分析に大変感銘を受けた」との声が多く上げられました。

後半の講義では、一流塾特別顧問の塩川正十郎氏(東洋大学総長、元財務大臣)を講師にお招きし、『21世紀の経営者へのメッセージ -20世紀の世界と日本の教訓-』と題する講義を行いました。塩川氏は、政権交代により野党になった自民党に対して、党再生に向けての政策提言を行ったというお話や、二大政党制には限界・問題があることから世界の政治システムの動向は連合政権に移行して行くといったお話をご披露頂きました。塾生からは「真剣な政策議論の必要性を再認識した」「二大政党制の限界に考えさせられる」といった声があげられました。

講義後の卒塾式では、塩川正十郎氏に加え、講師としてご登壇頂いた福川伸次特別顧問(財機械産業記念事業財団会長、元通産省事務次官)、渡邊五郎氏(森ビル(株)特別顧問、元三井物産(株)副社長)、齋藤正利氏(株毎日新聞社社会部編集委員)からご祝辞を頂きました。また、一柳塾長から一年間の塾の総括として、「一流塾で“本物”に触れた経験を活かし、“人間力”を磨き、たった一度の人生を明るく頑張る欲しい」、と塾生を激励しました。

一流塾、最後となる懇親会では、齊藤惇講師(株東京証券取引所グループ代表執行役社長)、絹谷幸二講師(日本芸術院会員、東京芸術大学教授)も駆けつけて頂き、塾生へのご祝辞を頂きました。その後、塾生から1年間の塾の活動を振り返りスピーチが行われ、「“一流”塾ってすごい名称で、最初見た時にびっくりした」、「新聞記事やTVに登場する“一流”の講師・ゲストの隣で歓談することができ、毎回楽しみだった」、「卒塾してしまったけど、“人間力”を磨くのはこれから」、「塾長のヘアスタイルの変化が楽しみでした」等の本音トークが飛び交い、大いに盛り上がりました。また、最後に卒塾後もOB会(塾士会)活動等を通じて再会することを誓い、第二期一流塾は修了しました。